

再生医療と市民理解： 夢を実現するには何が必要か

加藤 和人

Summary

再生医療やその基盤となる研究の進展は著しい。臨床応用に向けた研究開発も進み、患者や家族には恩恵がもたらされつつある。同時に、研究や治療開発のスピードが速いため、社会的課題への対応が遅れがちになることもある。社会への情報発信、患者・市民との対話、倫理的課題への対応などを研究の進展に合わせて進める必要がある。例として、再生医療で可能になることとそうでないことを理解してもらうこと、ヒト胚研究の倫理的課題を広く議論することなどがある。こうした社会的課題への取り組みの必要性と異分野を繋ぎ活動する人材の育成と配置の重要性について述べる。

Key words

再生医療
幹細胞研究
社会とのコミュニケーション
倫理的課題
ヒト胚研究
患者・市民参画

Kazuto Kato
大阪大学大学院医学系研究科
医の倫理と公共政策学分野教授

はじめに

近年の医学研究と医療の変化は著しく、新規の予防法や治療法の開発などが進み、多くの恩恵がもたらされている。そうした前向きな発展は社会のなかで大いにサポートしていくべきである。一方で、これらの分野の変化はとてつもないため、社会とのコミュニケーションや、市民による理解、そして医学や医療の倫理といった観点からさまざまな課題が生じている。

そうした課題への取り組みが必要な領域の代表例は、先端的な医科学技術の発展を伴うものである。たとえば、ゲノム解析技術の進歩は、がんをはじめとする領域でゲノム情報をもとにした医療(がんゲノム医療など)の発展を可能にした。多くの患者にこれまでになかった新しい治療が施されると同時に、遺伝情報の取り扱いや本人や家族に対する結果開示の難しさなどの倫理的課題に対する取り組みが必要となっている¹⁾。本稿では深入りしないが、着床前診断や出生前診断といった領域においても、恩恵がもたらされるとともに倫理的課題への対応が必要となっている。さらには、遺伝子を簡便に改変できるゲノム編集技術により新規の治療法開発が可能になると同時に、人の受精卵に対して世代を超えた遺伝子改変を行ってよいのかという議論が世界規模で巻き起こっている²⁾。

再生医学・医療の領域においても同様の状況がある。本特集の他の項でも紹介されているように、iPS細胞などの多能性幹細胞をはじめとする